（別紙4）　　平成　21　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2277102642		
法人名	有限会社　ナチュラルケア浜松		
事業所名	グループホーム　高丘（2階）		
所在地	静岡県浜松市中区高丘北2-17-15		
自己評価作成日	平成21年10月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉会
所在地	静岡県静岡市葵区中町24－2　若杉ビル2階
訪問調査日	平成21年11月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当事業所は認知症ケアを実践してきたノウハウを生かし、建物についても認知症の症状を緩和し利用者様が安心して生活できる環境をご提供できるよう細かな配慮を行っています。ホーム内の雰囲気もあたたかさを感じて頂けるよう木材を多く使用し、日当たりの良い共同空間になっています。建物周辺には遊歩道や公園があり、地域との交流の場所になっています。また、スタッフに関しても、法人独自の研修を取組、『尊厳のあるその人らしさを培う生活』を目標とし、より良いケアを実践できるよう目指しています。終末期ケアについても力を入れており、ご利用者様やご家族の意向を確認させていただきながら、重度化された際に対応できる機械浴の設置など環境を整えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

木造づくりのホームは、閑静な住宅街の中にあり、周辺の環境とも調和がとれた作りとなっている。利用者本位のサービス提供を行うことで、利用者ひとり一人が何をしたいのか、何を求めているのかを常に考え、充実した張り合いのある毎日が送れるよう職員が一丸となって取り組んでいます。近隣の公園や散歩道、商店なども有効に活用し、地域住民や商店との交流が深まっていくよう努力しています。地域と共に支え合い、ホームが新たな生活の場となるよう、地域の一員として自治会に加入し、回覧板等も利用者と一緒に届け会話も増えています。また、ホーム内は、椅子やソファーが所々に置かれ落ち着いた雰囲気で、草花もさりげなく飾られ、意心地よい共有空間となっています。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「尊厳のある　そのひとらしい　心を培う生活」を理念に掲げ生活を送れるよう取り組んでいる。	「尊厳ある　その人らしい　心を培う生活」を理念に掲げ、理念に添った生活の実現に向けて、職員全体で話し合い、具体的なケアについて意思の統一を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に加入し地域の行事などに参加している。今後も地域　近隣住民との交流を深めるように力をいれ取り組んでいきたい。	自治会に加入し、回覧板等利用者と一緒に次の方へ届けたり、地域の行事に利用者と積極的に参加している。今後はホームの祭りに、地域の方々の参加を呼びかけ交流を深めて行きたいと考えている。	地域の中でその人らしい暮らしを続ける為にも、地域住民の理解と協力を得る事は不可欠であると考えます。今後も取り組みを続ける中で、地域住民との交流が深まっていかれる事を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	学生の体験学習等は行っているが、事業所から地域の方への働き掛けは不十分。今後地域への活動に力を入れ取り組んでいきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	推進会議では日々の生活を伝えたり10月は秋祭りに参加の呼びかけをし取り組んでいる。今後も定期的に開催し運営に反映させるように行っていきたい。	地域住民、家族、市担当者等の協力を得て概ね2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。会議を通じて日々の生活を伝え、意見をもらい勘案事項に繋げるとともに、その過程をひとつひとつ積み上げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	推進会議内での情報交換はできているが、それ以外の行き来はできていない。月1度、介護相談員の訪問があり意見を頂く機会がある。	運営推進会議の場を利用して、生活保護の方について相談や意見交換をし連携を図っている。月1度介護相談員が訪問し、意見を聞く機会を設けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアの方針に取り組み実践していますが、すべての職員が深い意識を理解を得るまでには至っていない。今後も意識向上に努めていきたい。	管理者は、身体拘束についての意識向上に努めている。利用者の様子を察知したら、さりげなく声かけをする等安全面に配慮して、在宅のような自由な暮らしを支える工夫を行う事で、身体拘束をしないケアの実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	虐待防止関連法に関して全員が理解には至っていない。今後は外部での研修に参加し職員に周知していくように努めていきたい。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護に関しての学ぶ機会　研修が作れていないため今後は外部での研修に参加し職員に周知していくように努めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には十分な時間をとり、分かりやすい説明等を行い、理解　納得のできるように努めている。又はご家族の意向や不安も同時に聞き取り相談に乗っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	訪問時何でも話せるような雰囲気作りに努め、ささいな事柄でも職員で内容を共有しケアに反映できるように取り組んでいる。	家族の面会時には、積極的にコミュニケーションを図り、意見の出しやすい雰囲気作りを行なっている。意見要望等は、会議で報告され内容を共有し、ケアに反映できるように検討している。運営推進会議や市町村窓口、相談者など外部へ意見を出せる機会を設けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	各職員がそれぞれに役割（業務）をもってもらう中で管理者は定期的に面談の機会を設け、意見や提案を聞き運営に反映している。	管理者は、2～3ヶ月毎定期的に個別面談を行い、職員の意見、要望を聞くと共に運営に反映している。職員の異動は、利用者に与える影響を考え、馴染みの関係が保たれるよう最小限に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	幹部職員が職員個々と面談を設け、意見を聴き働きやすい環境作りをするように取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員それぞれの経験や力量にあわせて外部への研修を行い質向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	同業者との定期的な意見交流や職員交流等があまり行われていない。サービスの質の向上されるように同業者との交流等の活動と行うように努めていきたい。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居時の相談時には必ず本人の面談を行っている。その際　本人が困っている事や要望等を話しやすい雰囲気作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	電話連絡や面会時には面談の時間をとり、家族の要望や思い等細かな情報を聴き受け止めるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時に、問題点となる部分を見極めケアマネージャーと連携し、サービス利用の可能性について情報交換を行うように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	一緒に生活する中で、利用者様から学ぶ姿勢を持ち、お互いに支えあえる関係作りを築くよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族に不安がないように連絡をとり、職員と共に入居者を支えていただけるように関係作りを築くように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	その方が馴染みのあるスーパーへの買い物や、近隣の公園へ散歩に行き、自然や地域の方との交流ができるような機会を作れるよう支援している。	馴じみの理・美容室や商店に行き続けている利用者や友人、知人と電話で交流している利用者もおり、ひとり一人の生活習慣を尊重した対応がなされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者一人一人の認知・身体レベル等を把握し、職員が会話のかけ橋となり、利用者様同士の関係作りができるようサポートに努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去後も必要に応じ、相談や支援を行い家族と連携をとるように努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者の生活歴や一人一人の思い・希望等をくみ取れるように努めている。入居者が充実した生活が送れるように努めている	利用者の生活歴や個々の思いを汲みとり、家族や関係者から情報を得るよう努めている。本人にとって、誰とどのように暮らすことが最良なのか、センター方式を活用し取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前にご家族より生活歴等の情報収集に努め、入居後も家族や本人より情報を得るようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人一人の生活歴等を把握しその人の状態や希望に応じて対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	認知症による周辺症状の原因を探り、本人にとって安心が出来る暮らしをおくって頂けるよう、家族やスタッフ間で情報を共有し介護計画に取り組むように努めている	認知症による周辺症状の原因を探り、一部の方からセンター方式でアセスメント、モニタリング、カンファレンスを行い、ケアに反映させるようにしている。	地域で暮らし続ける為には、刻々と変化する利用者の状況を踏まえ、利用者本位で話し合い、関係者のアイディアを反映して計画が作成される事が望まれます。今後も統一した書式を活用し、利用者の望む生活の実現に向けた取り組みに期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日個々の状態・様子等を記録に残し、些細な情報も職員間で共有するよう努め、介護計画に活かすようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人のダメージを最小限にするため、本人の状況　家族の思いをくみ取り安心した生活を送って頂けるように努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域のお祭りや、地域の中学校からの体験学習など、入居者と地域の交流が出来るような取組を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	協力医院には24時間緊急連絡対応を依頼しており、いつでもスタッフから利用者の体調について相談できるようになっている。定期的に歯科往診も行っている。	利用者や家族が希望するかかりつけ医の受診支援を行うと共に、協力医院による24時間体制で相談、受診、往診に応じてもらえる関係を構築している。歯科医の往診も月に2回行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師が定期的にバイタル測定、健康管理を行っており、随時利用者の体調に変化があった場合はスタッフから看護師に相談する体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後の予測できる状態について、かかりつけ医や看護師と相談をし早期退院が出来るように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご本人・家族の思いをくみ取り、かかりつけ医と連携を密にし、終末期に向けた支援を取り組んでいる。	利用者や家族の意向を踏まえ、かかりつけ医や協力医院の医師、ホーム内の看護師、職員が連携をとり、安心して利用者が望む終末期を迎えられるように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	消防署での救命救急の研修に参加をしているが、事業所での定期的な研修にも努めていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防署の協力を得て、通報や初期消火訓練や避難訓練を定期的に行っている。近隣住民の協力も得られるような関係作りもできつつある。	年2～3回消防署の協力を得て、通報や初期消火訓練、避難訓練等の複合訓練を実施している。地域の方々にも協力してもらい一緒に行っている。また、毎月の自主防災訓練も重視している。非常用の備品も整備されている。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入居者個々の生活歴や個性を理解し、誇りやプライバシーを損ねない言葉づかいに注意し対応している。	人生の先輩に接するという気持ちで節度ある接し方を心がけている。利用者のペースを大切にし、サービス方法など利用者の尊厳を損ねる事がないように確認している。また、プライバシーの保護について職員採用時に研修を行い、責任ある取り扱いを徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	一人一人の力に合わせた働きかけをし、出来る限り自己決定を出来るように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人一人のペースを大切にしながら生活リズムを作っていくように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご本人が好む服装等を把握し、ご本人と一緒におしゃれを楽しむように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者の食べたいものを把握し、献立に活かすようにしたり、一緒に盛りつけや片付けをしている。一緒に楽しみながら食事が出来るように雰囲気作りをいている	食事を楽しむ工夫として、利用者の好みを献立を取り入れたり、手作りのランチョンマットを使用する等雰囲気作りを行っている。利用者の状態の変化もあり、現在調理は専任の職員が行なっている。職員も同じ物を利用者と一緒に食べ、盛り付け、片付けを一緒に行なっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量を把握し、一人一人の状態に合わせ、盛りつけ等工夫している。食事量　・水分量が少ない時は捕食をすすめている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後に歯磨きの声かけしている。定期的に歯科往診もあり、磨き方等を教えて頂いている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄チェック表を記入し排泄パターンを把握しさりげなく声掛けをし、不快な思いをしないように支援している。	利用者のサインを見逃さないようにし、排泄チェック表も活用して、個々の排泄パターンの把握を行なっている。自尊心に配慮しながら身体機能に応じて介助、誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	ご本人の排便のサイクルを知り、便秘時は散歩や水分をすすめる等、一人一人に合った対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	入浴時間は決めずご本人のの希望に合わせ入浴できるように努めている。	早番職員の出勤後より午後7時までならば利用者の意向に応じて、いつでも入浴できるように配慮している。また、デイサービスで使用している浴室や、機械浴等も柔軟に活用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	夜間だけではなく、日中も含め、睡眠がとれているのかを把握するようにしている。夜間眠れない時は、話をしたりホットミルクをすすめたりして安心し休めれるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	毎日の記録に処方箋内容を常に確認できるようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	ご本人の体調や状態に合わせ、できる事を生かし「まだやれる」という思いを持って生活できるように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日々の生活の中で散歩や買い物等に出かけ楽しみをもってもらうように支援している	ホーム前の散歩道や近くの商店などへ、利用者は自由に外出している。単調にならないよう、希望により外食や花見に出かけたりと関心が持たれるような外出支援も行っている。	利用者のこれまでの生活の継続として捉える外出の支援に加え、気分転換や五感刺激の機会としての外出が本人の意向に沿って継続的に実施される事を期待します。

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	入居者の状態に合わせ、ご自分で管理できる方には所持していただいている。買い物の際は、状況に合わせご自分で支払いできるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話の希望があった時には連絡が出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節の行事を取り入れたり、食材等で季節を感じていただけるように工夫している。	建物は木材を多く使い、黄色光の照明で落ち着いた雰囲気になっている。食堂や居間等にも庭の草花を活け、こたつなど置き、季節を感じる工夫をして、のんびりくつろげるような雰囲気となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	一人一人が安心できる場所　一人になれる場所の工夫をし、ゆっくり過ごせるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	慣れ親しんだものを持ってきていただき、本人が安心して暮らせる部屋作りに努めている。	居室の入り口を開けたときに、直接中が見えないよう造りが工夫され、利用者ごと、使い慣れた家具や思い出の楽器など持ち込まれ、個性ある居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ただ単純に張り紙をするのではなく、利用者のどの部分が障害を受けいているのかを見極め、その方にあった対応を心掛けている。		